第５講　2025年度 試作問題 第5問

第５問　日本史探究の授業で，江戸時代の政治や社会について考察することとなった。そこで青山さんと内藤さんは，幕府の直轄都市である大坂を事例に発表することにした。このことに関連する後の問い（**問１～５**）に答えよ。（資料は，省略したり，改めたりしたところがある。）（配点　15）

問１　青山さんは，当時の大坂を理解する手掛かりとして人口の問題に興味を持ち，発表の準備のために**表**と**メモ１**を用意した。**メモ１**中の空欄 ア に入る文**あ・い**と，空欄 イ に入るものとして適当な文**X・Y**との組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 25

表　大坂菊屋町の住民の人数　（単位：人）

年	a 地主・家持	b 地借・借家	c 奉公人	d 住民全体（a＋b＋c）
寛永 16（1639）	49	39	7	95
寛文元（1661）	48	86	16	150
天和２（1682）	73	246	86	405
正徳３（1713）	68	513	129	710
享保 18（1733）	66	432	118	616
宝暦５（1755）	83	401	152	636
天明元（1781）	41	413	101	555
寛政 12（1800）	33	429	146	608
文政２（1819）	35	380	182	597
天保 12（1841）	28	363	178	569
慶応２（1866）	44	305	167	516

（『大坂菊屋町宗旨人別帳』より作成）

メモ１

【調べたこと】
・江戸時代の都市は，人々が居住する多数の町により構成されていた。
・それぞれの町には，a自分の持っている土地・家屋に住む地主・家持（とその家族），b借りた土地や家屋に住んでいる地借・借家（とその家族），c地主・家持や地借・借家のもとに住み込みで働く奉公人，の３種類の住民がいた。
・**表**は，都市大坂を構成する町の一つである菊屋町の住民について，a・b・c及びd住民全体（a＋b＋c）の人数をおおむね20～30年ごとに整理したもの。
【**表**から分かること】
・［　ア　］。
・dの人数の増加率は1661～1682年の期間が最も高く，この期間にdの人数は2.7倍に増えている。
【考えたこと】
・1661～1682年の期間にdの人数の増加率が最も高い背景としては，［　イ　］，大坂の経済が発展したことがあるのではないか。

［　ア　］に入る文

あ　dの人数は，17世紀に増加し，18世紀初頭にピークを迎える
い　dの人数に占めるaの人数の割合は，18世紀初頭にピークを迎える

［　イ　］に入る文

X　田沼意次が商業や商品生産を活発にするために積極的な政策を行い
Y　西廻り航路を河村瑞賢が整備し，全国の物資が集まるようになって

①　あ ― X　　②　あ ― Y　　③　い ― X　　④　い ― Y

問２　青山さんは，大坂の歴史を調べるうち，幕府から住民に様々な法令が出されていることを知った。そこで 1735 年に出された法令(**資料１**) を取り上げ，その内容を読み解いた。これについて述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 26

資料１

米値段次第に下値（したね）(注 1) にあい成り，武家ならびに百姓難儀の事にて，町人・諸職人等に至るまで商（あきな）い薄く，かせぎ事これなく，世間一統の困窮におよび候あいだ (注 2)，当冬より江戸・大坂米屋ども，諸国払い米 (注 3)，(中略) 大坂は米一石につき銀四十二匁以上に買い請（う）け申すべく候。

(注 1)　下値：安い値段。

(注 2)　あいだ：～ので。～ゆえ。

(注 3)　払い米：領主が売り払う米。

①　この法令は，徳川家光が将軍であった時期に出されている。

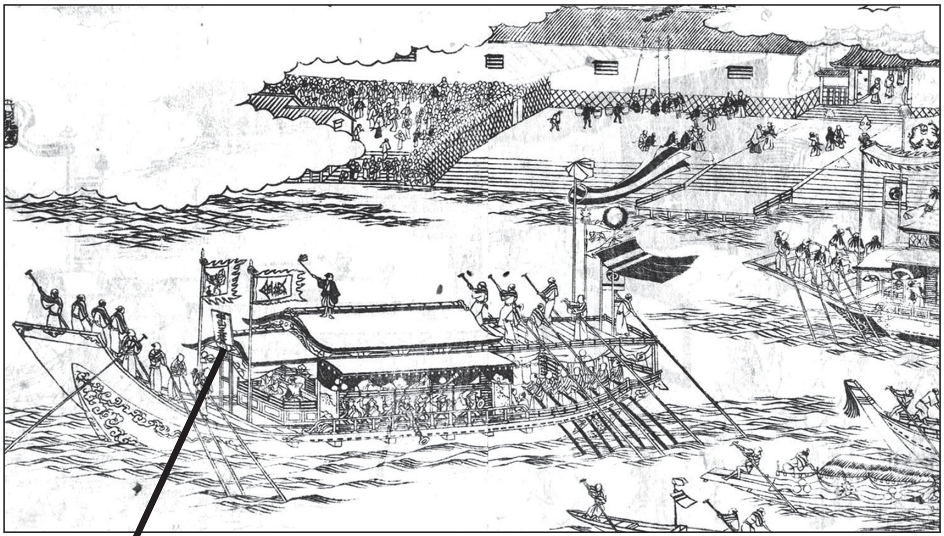
②　大坂では米の価格を主に金貨の単位で表した。

③　この法令は，諸国からの米を大坂の米屋が購入する際の価格の上限を定めている。

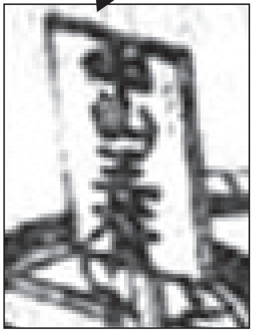
④　武士は米(石高) を基準に収入を得るため，米価が下落すると生活が苦しくなる。

問３　青山さんは，大坂とその周辺地域の名所・旧跡などを解説した 1796～1798 年刊行の『摂津名所図会』を図書館で見つけたが，そこには大坂の港の風景を描いた挿絵(**資料２**) が収められていた。そこで青山さんは，**資料２**について調べ，**メモ２**を作成した。**メモ２**中の空欄 ウ ・ エ に入る語句の組合せとして正しいものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 27

資料２　大坂の港の風景を描いた『摂津名所図会』の挿絵



（国立国会図書館所蔵）



（注）　王苻：王府と同じ。

メモ２

　資料２は，西日本の諸大名などが船の乗り降りをした大坂の港の風景である。ここでは，将軍のもとへ派遣された［ウ］の使節の乗る船が大坂の港に到着し，それを見物しようとしたと思われる多くの人々が集まっている。また，船の正面に掲げられた額には，使節がどこから派遣されたかが記されている。

　大坂に到着した［ウ］の使節は，1609 年以来支配を受ける［エ］藩の役人に先導され，東海道などを通って江戸に向かった。

① ウ ― 清　　　　　エ ― 対　馬
② ウ ― 清　　　　　エ ― 薩　摩
③ ウ ― 朝　鮮　　　エ ― 福　岡
④ ウ ― 朝　鮮　　　エ ― 対　馬
⑤ ウ ― 琉　球　　　エ ― 薩　摩
⑥ ウ ― 琉　球　　　エ ― 福　岡

問４　内藤さんは，大塩平八郎らが大坂で蜂起した事件（大塩の乱）に着目した。大塩は蜂起に先立って，自らの考えを広く知らせる文書を大坂近郊の村々などへ配っていた。内藤さんは，この文書に見える大塩の主張の一部を**メモ３**にまとめた。**メモ３**の内容や事件の経過・背景について述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 28

メモ３

・現在，米の値段がますます高くなっている。
・大坂町奉行やその部下の役人らが自分勝手な政治を行い，江戸へは廻米を行うのに，「天子」が所在する京都へは廻米をしていない。また，大坂にごくわずかな米を買いに来た者も捕まえている。
・このたび，志のある者らと申し合わせて，民衆を苦しめている役人たちやぜいたくをしている大坂の金持ちの町人らを成敗する。

①　大塩の乱が起きた理由の一つは米価の高騰で，それは浅間山の大噴火と関係があった。
②　大塩平八郎は，大坂町奉行らが将軍のいる場所に廻米をしなかったことを批判している。
③　飢饉の際に，各地から大坂に持ち込まれた米の一部が，他の都市に輸送されることがあった。
④　大塩平八郎は，飢饉などによって苦しむ貧民を救済するため，将軍を討つことを目的として蜂起した。

問５　内藤さんは，大塩の乱について調べるなかで，大塩平八郎が陽明学者であることを知った。そこで，陽明学に関して調査を進め，ノートに書き出した。その内容を記した次の文**あ**～**え**について，正しいものの組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。 29

あ　陽明学では，知識と行為を一体のものとする知行合一説などから，実践が重視された。

い　陽明学では，日本古来の精神に立ち戻ることが重視され，復古神道などが説かれた。

う　陽明学者である熊沢蕃山は，幕政批判とも捉えられるような内容を含む『大学或問』を著し，処罰された。

え　陽明学者である熊沢蕃山は，モリソン号事件の対応など，幕府の対外政策を批判した『慎機論』を著し，処罰された。

①　あ・う　　②　あ・え　　③　い・う　　④　い・え

第５講　2025年度 試作問題 第５問　解答

(全大問合計で 100 点満点)

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第５問（15）	1	25	2	3
	2	26	4	3
	3	27	5	3
	4	28	3	3
	5	29	1	3